

第二十五回 帝國議會 貴族院議事速記錄第十一號

衆議院議員選舉法中改正法律案

商法中改正法律案

印紙稅法中改正法律案

同日衆議院ヨリ政府提出市町村立小學校教育費國庫補助法中改正法律案ハ

本院ノ議決ニ同意シ奏上シタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

民事訴訟法施行條例中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵川村 鐵太郎君 副委員長 奥山 政敬君

族稱ノ記載ニ關スル法律案特別委員會

委員長 伯爵德川達孝君 副委員長 子爵松平直平君

去ル三日委員長ヨリ請願委員會特別報告第四號ヲ提出セリ

一昨四日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

國債ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案

登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律案

政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律案

同日委員長ヨリ請願文書表第六回報告書ヲ提出セリ

同日輸入原料砂糖戻稅法中改正法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 伯爵柳澤保惠君 副委員長 山本達雄君

同日豫算委員長伯爵正親町實正君辭任ニ付即日補闕選舉ノ結果子爵曾我祐準君當選シタリ

〔河井書記官朗讀〕

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

去ル二日政府ヨリ外國領海水產組合法中改正法律案ヲ提出セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ
砂礦法案

登錄稅法中改正法律案
沖繩縣罹災救助基金法案
造船獎勵法中改正法律案
遠洋航路補助法案

同日衆議院ヨリ左ノ同院提出案ヲ受領セリ
衆議院議員選舉法中改正法律案
貴族院議事速記錄第十一號 明治四十二年三月六日 議長ノ報告

明治四十二年三月六日(土曜日)
午前十時五分開議

議事日程 第十一號 明治四十二年三月六日

午前十時開議

第一 谷井勘藏君請暇ノ件

第二 砂礦法案(議院送付)

第三 登錄稅法中改正法律案(政府提出衆)

第四 沖繩縣罹災救助基金法案(政府提出衆)

第五 造船獎勵法中改正法律案(政府提出衆)

第六 遠洋航路補助法案(議院送付)

第七 外國領海水產組合法中改正法律案(政府提出)

第八 衆議院議員選舉法中改正法律案(衆議院提出)

第九 衆議院議員選舉法中改正法律案(衆議院提出)

第十 商法中改正法律案(衆議院提出)

第十一 印紙稅法中改正法律案(衆議院提出)

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二、砂礦法案、政府提出、衆議院送付、

第一讀會

貴族院議事速記錄第十一號 明治四十二年三月六日 議長ノ報告

〔東久世書記官朗讀〕

砂鑛法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及付候也

明治四十二年三月二日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

〔小字ハ衆議院ノ修正
ハ同削除ノ符號〕

砂鑛法

第一條 本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵及砂錫ヲ謂フ

金鑛ノ廢鑛又ハ鑛滓ニシテ主務大臣ニ於テ其ノ存在狀態砂金ト類似スト
認メタルモノハ之ヲ砂金ト看做ス

第二條 本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂

第三條 本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ
謂フ

第四條 砂鑛權者ハ砂礦區内ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但
シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 砂鑛區鑛區ト重複スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業權者ハ其ノ採
取及探掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者又
ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セ
ラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 金鑛ヲ目的トスル鑛業權者ハ其ノ探掘鑛區内ニ存スル砂金ヲ採取
スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區内ニ既ニ存スル砂鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在

前項ノ鑛業權者ハ砂金ノ採取ニ關シ之ヲ砂鑛權者ト看做ス

第七條 砂鑛權ハ相續、讓渡、抵當權、滯納處分又ハ強制執行ノ目的タル
外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第八條 砂鑛權ヲ得ムトスル者ハ願書ニ砂鑛區圖ヲ添ヘテ主務大臣ニ出願
スヘシ

第九條 砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ
土地所有者ハ命令ノ定ムル期間内ニ於テ自ラ砂鑛權ノ出願ヲ爲ストキノ
外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 砂鑛出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ主務大臣ニ届出ヲ爲

スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十一條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ増減ヲ出願スルコトヲ得
抵當權ノ設定アル場合ニ於テ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ抵當

權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十二條 砂鑛權者他人ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスルトキハ土地所
有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ

○其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスル者ニ對シ
○之ニ對シテ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セ
シムルコトヲ得

第十四條 砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ第十
二條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第十五條 補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト
能ハサルトキハ砂鑛權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十六條 前條ノ裁決アリタルトキハ其ノ未タ確定セサルトキト雖砂鑛權
者ハ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供託シテ砂鑛ヲ採取スルコト
ヲ得

第十七條 鑛業法第三章ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス但シ同法第五十六條ニ
依ル土地ノ使用ハ左ノ場合ニ依ル

一 洗鑛
二 製鍊所ノ建設
三 洗滌用水路及溜池ノ開設
四 砂鑛原料ノ置場

第十八條 當該官吏砂鑛業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ工場其ノ他ノ

場所ニ臨検スルコトヲ得

當該官吏臨檢ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第十九條 権利ヲ有セシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ砂鑛採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第二十三條ニ於テ準用シタル鑛業法第十條第三項又ハ同法第七十二條ノ命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 砂鑛權ノ出願又ハ砂鑛業ノ爲ニ他人ノ土地ニ立入りテ測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テ鑛山監督署長ノ許可ヲ受ケヌシテ障害物ヲ除去シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ノ訊問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ

之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條 鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、第十條、第十二條、第十五條、^{○第十六條、}第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、第七十二條、第七十四條、第八十七條乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三條、第一百三條及第一百四條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シテ之ヲ準用ス

附 則

第二十四條 本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 砂鑛採取法ニ依ル砂鑛採取ノ許可ハ之ヲ砂鑛權ノ登録ト看做ス

第二十六條 本法施行前ニ金鑛ヲ目的トスル鑛業ノ出願ヲ爲シタル者第一

條第二項ノ砂金ノミヲ採取セムトスルトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之ヲ
鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ鑛業ノ出願ハ願書發送ノ日時ニ於テ砂鑛權ノ
出願ニ代リタルモノト看做ス

第二十七條 本法施行前設定シタル鑛業權ニシテ第一條第二項ノ砂金ノミヲ目的トスルモノニ付テハ命令ノ定ムル期間内ニ其ノ鑛區ニ付砂鑛權設

定ノ登録ヲ申請スヘシ其ノ登録アリタルトキハ鑛業權ノ上ニ現ニ存スル

權利義務ハ砂鑛權ノ上ニ存續ス

前項ノ鑛業權ニシテ鑛業財團ヲ組成スルモノニ付テハ砂鑛權ノ登録アリタル後ト雖其ノ財團ノ關係ニ於テハ之ヲ鑛業權ト看做ス

第二十八條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十九條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分ニ對スル訴願、訴訟、判定、裁定又ハ裁決ニ關シテハ各砂鑛採取法又ハ鑛業法ノ規定ニ依ル

〔國務大臣男爵大浦兼武君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵大浦兼武君) 諸君、現行ノ砂鑛法ハ明治二十六年ニ制定セラレタルモノデゴザイマス、爾來時勢ノ進歩ニ伴ヒマシテ往々現今ノ情態ニ適當セザルコトガゴザイマス、加之不備ノ點モ多々ゴザイマスル故ニ此度改正案ヲ提出シタ譯デゴザイマス、其主要ノ點ヲ一二舉グマスレバ、第一、金鑛ノ廢鑛又ハ鑛津ニシテ其存在ノ狀態ガ誠ニ砂金ニ相似タルモノガゴザイマスカラ、ソレハ此砂鑛法ノ支配ニ屬セシムル譯デゴザイマス、第二ニハ是マデ外國人ニシテ如何ナル形式ニテモ砂鑛權ト云フモノハ得ラレヌト云フコトニナツテ居リマシタ、矢張リ鑛業法ト同ジク帝國法人ノ社員トナツタ以上ハ外國人ニモ砂鑛權ヲ得セシムルコトニ致シタノデゴザイマス、第三ハ砂鑛權ヲ抵當ニシテ、サウシテ他ノ資金ノ融通ヲ圖ルコトデゴザイマス、右等ガ即チ改正ノ大體デゴザイマス、簡單ニ説明イタシテ置キマス、何卒御協賛アラムコトヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三ニ移リマス、登録稅法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

登錄稅法中改正法律案
〔東久世書記官朗讀〕

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十二年三月二日

貴族院議長公爵德川家達殿 衆議院議長 長谷場 純孝

登錄稅法中改正法律案

登錄稅法中左ノ通改正ス

第十五條 砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ

登錄稅ヲ納ムヘシ

一 砂鑛權ノ設定

新規登錄

採取區域 河床ハ每二里迄 其ノ他ハ每十萬金十五圓

坪迄

每一件 金三圓

設定砂鑛區每一箇 金三圓

二 砂鑛權ノ變更

採取區域 河床ハ每二里迄 其ノ他ハ每十萬金十五圓

坪迄

每一件 金一圓

減區 但シ増區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

每一件 金十五圓

三 砂鑛權ノ移轉

相續

每一件 金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件 金十五圓

四 抵當權ノ設定

新規登錄

砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾

又ハ協定ニ因ル設定

五 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更

每一件 金十圓

六 抵當權ノ移轉

相續

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件 金五圓

金十圓

- | | | |
|--|-----|-----|
| 八 廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅 | 每一件 | 金一圓 |
| 九 登錄ノ更正、變更又ハ抹消 | 每一件 | 金十錢 |
| 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス | | |

附則

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前砂鑛採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ手數料ヲ納メタル者ハ砂鑛法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登錄ニ付更ニ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス砂鑛法第二十七條第一項ニ依ル登錄ニ付亦同シ

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 本案ハ前ノ日程ノ砂鑛法案ガ制定ニナリマスニ付イテ、砂鑛權ニ付イテ登錄イタシマス場合ノ登錄稅ヲ定ムル法案デアリマス、ドウゾ御協贊ヲ請ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 諸君ニ御諮詢致シマスガ、議事日程第三ノ法案ノ特別委員ハ、前ノ砂鑛法案ノ特別委員ニ付託イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

案、政府提出、衆議院送付、第一讀會
〔東久世書記官朗讀〕

沖繩縣罹災救助基金法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十二年三月二日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

第一條 沖繩縣ニ於テ貯蓄スヘキ罹災救助基金ノ最少額ハ二十萬圓トス
前項ノ金額ニ達シタル年度ヨリ遡リ十年間ニ本法ニ依リ支出シタル救助

費平均年額ノ二十倍ノ金額カ前項ノ金額ヨリ多キトキハ其ノ金額ヲ以テ最少額トス但シ支出額ノ最高及最低年度ハ平均計算ニ加ヘス

第二條 沖繩縣罹災救助基金ノ毎年度積立額ハ三千圓以上トス但シ前條ノ制限額ニ達シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 國庫ハ沖繩縣罹災救助基金ノ補助トシテ初年度ヨリ五年度間毎年九千圓ヲ交付ス

第四條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外沖繩縣罹災救助基金ニハ罹災救助基金法ヲ準用ス但シ同法中市トアルハ區ニ該當ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ四十年度間之ヲ施行ス

沖繩縣ニ於ケル災害救助ニ關スル從來ノ例規及舊慣ハ其ノ效力ヲ失フ

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 沖繩縣ニハ來年度ヨリ自治制ヲ施クコトニナツテ居リマス、其事ハ豫算ニ於テモ是ガ補助ノ經費ガ計上シテアリマスカラ、既ニ御承知ニナツテ居ルコト、存ジマス、付イテハ沖繩縣ニモ他府縣同様ニ罹災救助基金ト云フモノヲ設ケマシテ、災害ノアツタ場合ニ救助ヲ致サセル必要ガアルト云フコトヲ考ヘマシテ、茲ニ此沖繩縣ニ關スル罹災救助基金法ト云フモノヲ制定ヲ致シタイト考ヘルノデアリマス、願ハクハ御贊同アラムコトヲ……

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御質問モ無イト認メマスカラ議事日程第五ニ移リマス

○議長(公爵徳川家達君) 造船獎勵法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

造船獎勵法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十二年三月二日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

造船獎勵法中改正法律案

造船獎勵法中左ノ通改正ス

第二條中「鐵製又ハ」ヲ削リ「七百噸」ヲ「一千噸」ニ改ム

第三條中「總噸數七百噸以上一千噸未滿ノ船舶ニ在テハ船體總噸數一噸ニ付金十二圓、一千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金二十圓ヲ支給シ」ヲ「船體總噸數一噸ニ付金十一圓乃至金二十二圓ノ範圍内ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ支給シ」ニ改ム

第四條中「船體及機關」ヲ「船體、機關及艤裝品」ニ改ム

第五條 詐偽ノ所爲ヲ以テ造船獎勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役及二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ且獎勵金ニ相當スル金額ヲ償還セシム

〔前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス〕

第一項ノ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第六條中「數罪俱發」ヲ「併合罪」ニ改ム

第八條 此ノ法律ハ明治四十三年一月一日ヨリ十年間之ヲ施行ス

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法公布前認許證書ノ交付ヲ申請シ本法施行前其ノ交付ヲ受ケ製造ニ著手シタル船舶ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第四條中艤裝品ニ關スル規定ハ本法施行ノ際製造中ノ船舶ニ關シテハ之ヲ適用セス

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 造船獎勵法中改正法律案、是ハ既ニ十餘年間造船獎勵法ヲ實施イタシマシテ、其效果モ顯著ナル次第アリマスルケレドモ、内外ノ造船業ノ進歩ニ依リマシテ尙ホ改善ヲ加フベキモノアルガ故ニ、

此度改正ヲ致シマシタノデアリマスルガ、其中ノ重モナルモノハ是マデ一千噸未満ノ船舶ヲ造ルニモ獎勵金ヲ下付シテアリマスケレドモ、ソレヲ一千噸以上トシ、從ツテ獎勵金ノ金額モ改正イタシ、又是マデハ船體並ニ機關ノ點ニ限リテ居リマシタ所ヲ、艤裝品ヲ加フル等ノコト、又其他ハ刑法ノ改正ニ依リマシテ其結果トシテ罰則ノ改正ヲ致シマシタ等ノ事柄デゴザイマス、御

協賛ヲ願ヒタウゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六ニ移リマス、遠洋航路補助法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

遠洋航路補助法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十二年三月二日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

〔小字ハ衆議院ノ修正
ハ同削除ノ符號〕

遠洋航路補助法

第一條 主務大臣ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ運送業ヲ營ム者ニ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給シ三年以上十一年以下ノ期間ヲ限り左ノ遠洋航路ニ於テ定期航海ニ從事セシムルコトヲ得但シ補助金額及年限ニ付テハ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

一 歐洲航路
二 北米航路
三 南米航路
四 濟洲航路

本法ニ於テ補助航海ト稱スルハ前項ニ依ル定期航海ヲ謂フ

第二條 補助航海ニ使用スル船舶ハ總噸數三千噸以上ニシテ一時間十二海里以上ノ速力ヲ有シ主務大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シ且帝國船籍ニ登

錄シタル船齡十五年以内ノ鋼製汽船ニ限ル
船舶ノ速力ハ主務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ算定ス

外國製造ノ船舶ハ補助航海ニ使用スルコトヲ得ス但シ帝國船籍ニ登錄ノ際船齡五年以内ノ船舶ニシテ已ムヲ得ナル事由ニ因リ其ノ使用ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 航海補助金ハ使用船舶總噸數一噸航海里數一千海里ニ付速力一時

間十二海里ヲ有スルモノニ對シ五十錢以内、速力一時間一海里ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ十ヲ増シタル金額以内ニ於テ航路ノ狀況ニ應シ之ヲ支給ス但シ船齡五年ヲ超ユル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス外國製造ノ船舶ニ對シテハ前項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ半額ヲ支給ス

特ニ主務大臣ノ認可ヲ得タル設計ニ依リ製造シタル船舶又ハ定期航海ノ開始後五年ヲ經過セサル航路ニ使用スル船舶ニ對シテハ前二項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ百分ノ二十五以内ヲ增給スルコトヲ得航海補助金ノ算定ニ於テハ航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ一噸未滿又ハ一海里未滿ノ端數ハ之ヲ除算ス

第五條 補助航海ニ於ケル旅客、貨物ノ運賃ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ算定ムヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シ旅客、貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトヲ得

第六條 補助航海ニ使用スル船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ郵便物及郵便用品ヲ無賃ニテ搭載シ無線電信ノ通信ニ關スル設備ヲ爲シ且通信事務又ハ航路視察ノ爲主務大臣ノ派出スル吏員ヲ無賃ニテ乗船セシムヘシ

第七條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ定期航海ノ維持ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ使用船舶ニ乗組マシムヘシ

總噸數三千噸以上五千噸未滿 四人
總噸數五千噸以上八千噸未滿 五人

總噸數八千噸以上 六人

第九條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ナレハ外國人ヲ其ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス

外國ニ於テ死亡其ノ他已ムヲ得ナル事由ニ因リ使用船舶ノ職員ニ闕員ヲ生シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者又ハ船長ヨリ直ニ主務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ補助航海ニ關スル收支計算書及營業狀況報告書ヲ提出スヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助航海ニ從事スル者ノ本店、支店、代理店又ハ使用船舶ニ吏員ヲ派遣シ其ノ收支計算及營業狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者ハ當該吏員ノ求ムル所ニ從ヒ業務上一切ノ事項ヲ開申シ帳簿其ノ他一切ノ文書ヲ檢閱ニ供スヘシ

第十一條 主務大臣ハ相當ノ補償金額ヲ定メ補助航海ニ使用スル船舶ヲ公用ノ爲收用又ハ使用スルコトヲ得

補助航海ニ使用シタル船舶ニ付テハ最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間仍前項ノ規定ヲ適用ス

補償金額ニ對シ不服アル者ハ收用又ハ使用ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十二條 補助航海ニ使用スル船舶ハ航海補助金ヲ受ケテ航海スル期間及最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ外國人ニ譲渡シ、貸渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ又ハ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 左ノ事項ハ主務大臣之ヲ定ム

一 補助航海ノ起點、終點及寄港地

二 使用船舶ノ數、總噸數、速力、船齡及代船ニ關スル事項

三 航海度數、航海日數及發著日時ニ關スル事項

四 航海補助金ノ支給方法

五 義務ノ不履行ニ基ク航海補助金ノ減給、停止、廢止、償還又ハ其ノ他ノ處分ニ關スル事項

第十四條 主務大臣ハ補助航海ニ從事スル者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代理人又ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十五條 第十一條ノ規定ニ依ル船舶ノ收用若ハ使用ヲ拒ミタル者又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ且當該

船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシム前項償還金ハ國稅滞納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十六條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

航海獎勵法ハ之ヲ廢止ス但シ本法公布ノ際同法ニ依リ航海獎勵金ヲ受クル資格ヲ有スル船舶及同法ノ適用ヲ受クル爲製造中ノ船舶ニ關シテハ明治四十七年九月三十日迄同法ニ依リ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ航海獎勵金ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給セス

明治三十二年九月三十日以前ニ於テ帝國船籍ニ登録シタル外國製造ノ船舶ニ關シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 本案遠洋航路補助法案モ、航海獎勵法ノ十有餘年施行ノ結果、又此他ノ命令航路ニ於キマシテハ豫算外國庫ノ負擔ニ屬スル契約トシテ歐洲航路北米航路等ヲ補助イタシテアツタノデアリマスルガ、是等ノ點ニ付キマシテ多年ノ經驗上、航海獎勵法ニ於キマシテハ、最早此船舶ニ對スル保護ヲ致シマスヨリモ、航路ニ對シテ保護ヲスルノ方針ヲ取ルノ必要ヲ認メタノデアリマス、是マデハ航海獎勵法ニ依リマシテハ、隨意ニ船主ガ航路ヲ撰定イタシテ航海ヲ致シタノデアリマス、從ツテ此政府ノ獎勵金ヲ下付スベキモノモ限リナク増加ヲ致スヤウナコトデ、一面財政ノ整理上、又之ニ對シテ制限ヲ加ヘルノ必要モ認メタノデアリマス、併ナガラ此航海獎勵法ノ效果ニ依ツテ段々進歩シテ來タ所ノ航海事業ノ將來ノ發達ヲ妨ゲザル範圍内ニ於テ尙ホ益、發達ヲ希望スル考ヲ以テ改正ヲ加ヘマシタ次第デアリマス、而シテ航海獎勵法ノ改正ト共ニ此航海獎勵法ニ依ツテ豫算外國庫ノ負擔ニ屬スル契約トシテ補助獎勵ニナリマシタ分モ又はハニ様ニ分レテ居ルヤウデアツテ、モト同一ノ方法ニ基準シテアツタモノデアリマスカラ、是モ一縁ニ致シテ茲ニ改正案ヲ提出イタシタ譯デアリマス、大要右ノ次第ゴザイマスカラ御協賛ヲ願ヒマス
○男爵田健治郎君 唯今議題ニナリマシタ第五、第六ハ相關聯シタ議案ノヤウデアリマスカラ、之ヲ合併シテ十五名ノ委員ニ御付託ニナツタラ宜カラウカト存ジマス、動議ヲ提出イタシマス

○田中芳男君 贊成

○男爵武井守正君 贊成

○磯邊包義君 贊成

○子爵板倉勝達君 贊成

○男爵關義臣君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 田男爵ノ第六ノ法案ノ委員ノ數ヲ十五名、ソレニ第五ノ法案モ同一委員ニ付託スル其動議ニ對シテ御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第七ニ移リマス、外國領海水產組合法中改正法律案、政府提出、第一讀會

〔河井書記官朗讀〕

外國領海水產組合法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十二年三月二日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
外務大臣 伯爵小村壽太郎
農商務大臣 男爵大浦 兼武

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第八第九ニ移リマス、衆議院議員選舉法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

衆議院議員選舉法中改正法律案 (衆第八號)
〔宮田書記官朗讀〕

右本院提出案及送付候也

明治四十二年三月二日

衆議院議長 長谷場 純孝

外國領海水產組合法中左ノ通改正ス
〔政府委員石井菊次郎君演壇ニ登ル〕

第五條 削除

第六條 第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

〔政府委員石井菊次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(石井菊次郎君) 本案ノ目的トシマスル所ハ明治三十五年ニ公布セラレマシタル外國領海水產組合法ノ第五條ヲ削除イタシマシテ、從ツテ其削除ノ結果トシテ、第六條ニ項末ノ變更ヲスルト云フダケノ極ク簡單ナル法律案デゴザイマスル、此外國領海水產組合法ハ此目的トスル所ハ御承知ノ如ク外國領海ノ或ル方面ニ出漁スル所ノ帝國水產業者ハ各自ノ間ニ組合ヲ設ク

衆議院議員選舉法中改正法律案 (衆第九號)
右本院提出案及送付候也

ルコトヲ得ル、又設ケタルトキニハ進ンデ此同方面ニ出漁スル所ノ同業者ハ悉ク此組合ニ加入スルコトヲ強制シマシテ、ノミナラズ其加入セザルモノハ同方面ニ於テ漁業ニ從事シ又ハ漁業ニ關スル船舶或ハ漁具ヲ廻送スルコトヲ得ナイト云フ禁條ガ即チ此同法ノ第五條デアルノデアリマス、ソレデ斯ノ如キハ單リ漁業者ノ自由ヲ檢束スルノミナラズ、其利益或ハ其業務ニ不便ヲ來タシマシテ又延イテハ外國ノ政府及人民間ニモ少ナカラザル不快ノ念ヲ起サシムルモノデゴザイマスル、ソレデ甚ダ面白クナイヤウナ法律ノ規定デハゴザイマスルガ、其公布セラレタル當時、即チ明治三十五年前後ノ情況ニ於キマシテハ我ガ水產業者ノ利益保護上實ニ已ムヲ得ナイト云フ事情ガゴザイマシテ、其當時此公布ヲ見タ次第デアリマス、所ガ其後、幸ニシテ國際ノ間ニ漁業ニ關スル協約ノ成立ヲ見マシテ、又取極メノ成立モゴザイマシタ今日ニ於テハ、斯ノ如ク我ガ水產業者ノ自由ヲ拘束シ或ハ外國人ニ不快ノ感ヲ與ヘルト云フヤウナ法律ハ保存シテ置ク必要ガ幸ニ無クナリマシタノデアリマス、此必要ガ無クナリマシタ以上ハ一日モ早クスカル法案ハ削除シタ方ガ宜イト云フノガ本案提出ノ理由デゴザイマス、ドウゾ御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

得ナイト云フ禁條ガ即チ此同法ノ第五條デアルノデアリマス、ソレデ斯ノ如キハ單リ漁業者ノ自由ヲ檢束スルノミナラズ、其利益或ハ其業務ニ不便ヲ來タシマシテ又延イテハ外國ノ政府及人民間ニモ少ナカラザル不快ノ念ヲ起サシムルモノデゴザイマスル、ソレデ甚ダ面白クナイヤウナ法律ノ規定デハゴザイマスルガ、其公布セラレタル當時、即チ明治三十五年前後ノ情況ニ於キマシテハ我ガ水產業者ノ利益保護上實ニ已ムヲ得ナイト云フ事情ガゴザイマシテ、其當時此公布ヲ見タ次第デアリマス、所ガ其後、幸ニシテ國際ノ間ニ漁業ニ關スル協約ノ成立ヲ見マシテ、又取極メノ成立モゴザイマシタ今日ニ於テハ、斯ノ如ク我ガ水產業者ノ自由ヲ拘束シ或ハ外國人ニ不快ノ感ヲ與ヘルト云フヤウナ法律ハ保存シテ置ク必要ガ幸ニ無クナリマシタノデアリマス、此必要ガ無クナリマシタ以上ハ一日モ早クスカル法案ハ削除シタ方ガ宜イト云フノガ本案提出ノ理由デゴザイマス、ドウゾ御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

明治四十二年三月二日

貴族院議長公爵徳川家達殿 衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

衆議院議員選舉法別表中左ノ通改正ス

神奈川縣横濱市ノ次ニ

横須賀市

一人

長崎縣長崎市ノ次ニ

佐世保市

一人

新潟縣新潟市ノ次ニ

長岡市

一人

三重縣四日市市ノ次ニ

宇治山田市

一人

愛知縣名古屋市ノ次ニ

豊橋市

一人

長野縣長野市ノ次ニ

松本市

一人

福島縣若松市ノ次ニ

福島市

一人

廣島縣尾道市ノ次ニ

吳市

一人

ヲ加フ

沖縄縣

二人

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十二移リマス、商法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔宮田書記官朗讀〕

商法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

商法中左ノ通改正ス

第二百二十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併ニ因リ消滅スヘキ會社ノ記名株式ハ第八十一條ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲スマテ其旨ヲ公告シテ一時其讓渡ヲ停止スルコトヲ得

○富井政章君 此法案ハ内容ニ於テ惡ルイトハ思ヒマセヌガ、目下法律取調委員會ニ於キマシテハ此商法全部ノ修正ニ著手セラレテ居リマス、其調査ハ昨今餘ホド進行イタシタヤウデアリマシテ、次ノ議會ニ必ズ修正案ガ提出セラレルコトデアラウト存ジマス、此會社合併ノ場合ニ付イテモ此案ニ定メテアル事柄バカリデナク、他ノコトニ付イテモ規定ヲ設ケネバナラスト思ヒマス、然ラバスノ如クニ切レ切レニ商法ノ修正ヲ行フヨリハ一年延ビテモ纏マツタ修正ヲ行フコトガ宜イノデアラウト考ヘマス、ソレデ私ハ政府ニ對シテ此案ニ付イテ如何ナル意見ヲ有ツテ居ルカ、之ヲ伺ヒタイノデゴザイマス

〔政府委員河村讓三郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(河村讓三郎君) 御答ヲ致シマスガ、商法ノ如キ大法典ニ對シマシテ度々個々別々ノ改正ヲ加ヘマスルコトハ、前後ノ連絡ヲ缺キ主義ノ一貫セザル結果ヲ見ルノ恐ガゴザイマス、此改正ノ他ニ多々改正スベキ點ガアリト認メマシテ、著々調査ヲ急イデ居リマス、次ノ議會ニハ必ズ完全ナル修正案ヲ提出イタシタイ考デアリマスル、此際ニ此案ヲ直チニ成立セシメルカ、一年ヲ待ツテ完全ノ改正ヲ加ヘルカト云フ、其利害得失ニ付キマシテハ、十分公明ナル御判断ヲ願ヒタク、政府ノ考ハ斯様ナ考デアリマス

○富井政章君 贊成デアルカ、反対デアルカ、ソレヲ伺ヒタイノデス、唯今ノ御答ハ少シ不明瞭ニ思ヒマス

〔政府委員河村讓三郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(河村讓三郎君) 尚ホ御答イタシマス、此案ニ對シマシテハ内容ハ別段反対デアリマセヌ、改正ノ形ハ別問題ト致シマシテ、内容ハ同意デアリマス、併ナガラ此際ニ特ニ此改正ヲ行フト云フコトニ付キマシテハ、反対

デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十一ニ移リマス、印紙稅法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔宮田書記官朗讀〕

印紙稅法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十二年三月二日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

印紙稅法中改正法律案

印紙稅法中改正法律案

第三條中「金高千圓以下ノモノ印紙稅五錢」ノ前ニ「金高二百圓以下ノモノ印紙稅三錢」ヲ加フ

○議長(公爵徳川家達君) 是デ本日ノ議事ハ終リマシタ、御委託ニナリマシ

タ特別委員ノ氏名ヲ書記官長ヲシテ朗讀イタサセマス

〔太田書記官長朗讀〕

砂鑛法案外一件特別委員

伯爵大木 遠吉君 子爵水野 直君 男爵本多 副元君

男爵長松 篤棐君 原保太郎君 奥山政敬君

大庭長九郎君 絲原武太郎君 宮崎喜久太郎君

伯爵島津 忠亮君 子爵鍋島 直彬君 男爵加納 久宜君

男爵奈良原 繁君 男爵尚順君 男爵清水 資治君

石井省一郎君 辰巳 榛太郎君 並木和一君

造船獎勵法中改正法律案外一件特別委員

公爵二條 基弘君 伯爵吉井 幸藏君 子爵鳥居 忠文君

男爵赤松 則良君 男爵相浦 紀道君 男爵小澤 武雄君

淺田 德則君 男爵目賀田種太郎君 男爵紀俊秀君

男爵吉川 重吉君 藤田 四郎君 磯邊 包義君

田島竹之助君

廣海 三三郎君

日高榮三郎君

外國領海水產組合法中改正法律案特別委員

伯爵寺島誠一郎君 子爵大久保忠順君

子爵本多忠敬君

田中芳男君 村田保君

男爵河邊博長君

男爵眞田幸世君 男爵淺野守夫君

細谷巖太郎君

衆議院議員選舉法中改正法律案外一件特別委員

伯爵松平 賴壽君 子爵松平康民君

宮本小一君

男爵沖守 固君 男爵北島齊孝君

男爵南光利君

西村亮吉君 南郷茂光君

五十嵐敬止君

商法中改正法律案特別委員

伯爵柳原 義光君 子爵松平親信君

田邊輝實君

男爵武井 守正君 菊池武夫君

室田義文君

岡野敬次郎君 市川文藏君

下村辰右衛門君

印紙稅法中改正法律案特別委員

子爵板倉勝達君 子爵京極高德君

田邊輝實君

男爵小原適君 中島永元君

室田義文君

高橋新吉君 加藤正惠君

森廣三郎君

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ハ本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス

本日ハ是デ散會ヲ致シマス

午前十時三十九分散會